

## 【実践報告②】

# 新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究

知立市立知立小学校

## 1 はじめに

知立小学校は、全校児童約810人、通常学級26学級、特別支援学級5学級、本年度（令和5年度）創立150周年を迎える伝統校である。学区には、2016年ユネスコ無形文化遺産に登録された知立まつりの行われる知立神社や、東海道の池鯉鮒宿跡がある。

## 2 研究の内容

### (1) 研究概要

本校では、1年次（令和3年度）は研究授業で授業マネジメントシートの活用・実践をしたが、シートよさを実感しながらも、作成に時間がかかるなどの声があり、活用の広がりがみられなかった。そこで、2年次（令和4年度）は、シートを簡略化し、1単元分を学年で相談して作成することで、全校で取り組むことができた。そして、3年次（令和5年度）は新しくシートを作成しての活用・実践と既存のシートを活用・実践する取組を全校で行い、単元を通しての授業改善や学習改善と「主体的に学習に取り組む態度」を見取るための視点をもつことを目指した。

### (2) 実践内容

#### ア 全校での授業マネジメントシートの活用・実践

(ア) 6年国語「風切るつばさ～クルルとカララは本当に関係を修復できているのか～」の実践

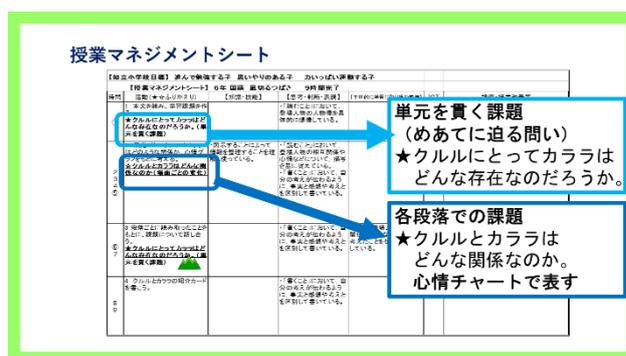
「風切るつばさ」は、登場人物が場面ごとに心情を大きく変化させていく物語である。本実践では、単元を貫く課題を「クルルにとってカララはどんな存在なのだろうか」とし、各場面で「クルルとカララはどんな関係なのか」を読み取り、クルルとカララの距離感を心情チャートで表す活動に重点を置き、授業マネジメントシート（資料1、別紙1）を作成した。

本単元では、心情チャートと振り返りを1枚のワークシート（資料2）にして活用した。

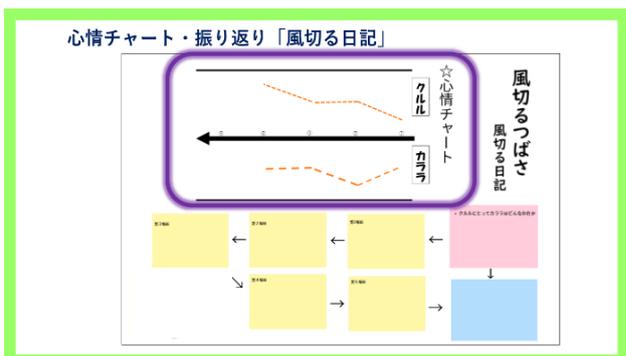
心情チャートには、中心になる登場人物であるクルルとカララの心の距離を場面ごとに示し、物語全体の心情の変化を視覚的に捉えられるようにした。振り返りは、1枚ポートフォリオ形式にすることで、単元全体の振り返りの内容や場面ごとの心情の変化を明確に捉えられるようにした。

第6時には、物語の最後の場面で「クルルとカララの関係は本当に近づいたのだろうか」について、班や全体で話し合った。

【資料1 授業マネジメントシート】



【資料2 心情チャートと振り返り】



全体での話し合いでは、「クルルとカララの心の距離が近くなっている」という意見が多く出た。教師は、前時までの振り返り「風切る日記」から「クルルはカララを許せないと思っている」という考えをもっている児童を把握していたため、意図的に指名し、クラス全体に揺さぶりをかけた。

この児童の発言をきっかけに、いろいろな見方の意見が出され、児童たちの考えに変容が見られた。そこで、学習支援アプリの共有機能を使って「心情チャート」でそれぞれが自分の考えを表し、学級全員の傾向を視覚的に把握させた（資料3）。この「心情チャート」とこれまで1枚ポートフォリオでまとめてきた自分の「心情チャート」と比較することで、それぞれの考えを深めることができた。

次の第7時では、学習支援アプリの共有機能を用いて、児童たちの変容を可視化し、それを話し合いによって言語化しながら、テーマについて考えた。対立的な意見が生まれていた議論も、文章の書き方に着目して、客観的に事実を捉えようとする姿が見られるようになり、教科書の文章の解釈にもう一度立ち戻り検討する姿が見られた。

#### (イ) 本単元での授業改善

単元を進めていく中で、「クルルとカララはどんな関係か」という問いに対し、「助け合っている関係」のように「〇〇の関係」という表現でまとめる児童が多かった。問いの意図が児童に伝わらなかったため、その先の思いまで記述するに至らず、ねらいに沿った反応ではなかった。そこで、より具体的な「お互いどう思っているか」という表現に改善することで、「クルルは困ったときに助けてあげようと思っているし、カララはいつも頼りにしていて、ありがとうと思っている」のような、相互関係を二者の視点で振り返る児童が増えた。

さらに、心情チャートは授業での学習を踏まえて記入をする予定だったが、授業中に意見の変容が見られたため、授業の最初と最後の2回記入するよう改善した。すると、教師が児童の変容をつかむことができるようになり、次時の授業の進め方を考える上で参考にすることができた。

#### (ウ) 主体的に学習に取り組む態度の見取り

単元を貫く課題について振り返る「風切る日記」の記述等から見取った。評価規準を具体的な子どもの姿として「これまでの学習を通して、自分なりにもっている登場人物の相互関係や心情について、友達や教材文と積極的に対話する中で、より考えを深めようとしている」と捉え、資料4に示す基準を作成して、評価した。

資料5の児童は、友達の考えを聞いてそれまでの自分の考えを見つめ直したこと、第2場面や第4場面の学習を振り返り、新たな思いをもっていると判断し、A評価とした。

次ページ資料6の児童は、友達の考えを聞いて自分の考えを見つめ直し、教科書の言葉を根拠にしているが、これまでの学習の中での読み取りと関連して考えられて

#### 【資料3 学級全体の心情チャート】



#### 【資料4 作成した評価基準】

- A：これまでの学習を生かし他の人の意見を取り入れ、自分の考えを考え直そうとしている。
- B：これまでの学習と他の人の意見の一方を取り入れ自分の考えを考え直そうとしている。
- C：これまでの学習を生かさず、他の人の意見も取り入れず、自分の考えのみを述べている。

#### 【資料5 児童の振り返り A 評価の例】

・クルルとカララの関係は本当に近づいたのだろうか  
私は、ここまでの話し合いで、クルルとカララの関係は最終的に助け合っている関係だと思っていました。けど、■さんの話を聞いて、そんなに近づいていないんじゃないかと思ってきました。大切な仲間として思っているのかもしれないけれど、第2場面で裏切って第4場面でも一度置いて旅立ったことを考えると、もう一度仲が最終的に元に戻ったり、良くなったりすることは難しいんじゃないかと思いました。私は、クルルとカララの関係はそんなに近づかなかったと思います。もしかしたらカララがクルルのことを大切な仲間だと思っているかもしれませんが、クルルからしたら裏切られて置いて行かれていたのもう一度仲良くし直すなんて無理だと思ったからです。

いないと判断し、B評価とした。

【資料6 児童の振り返りB評価の例】

私は、「〇〇さん」の話聞いて、仲は少しは近づいたと思います。理由は、教科書P.65の「もちろんさ」のところから、仲が近づかなければこんな言葉にはならないと思ったからです。

【資料7 児童の振り返りC評価の例】

自分は二人は仲がよいと思いました。

資料7の児童は、自分の感想のみで授業での学びが生かされていないと判断し、C評価とした。

この結果を受け、全員の振り返りを学習用タブレットで共有したり、学級通信などで、A評価の児童の例を紹介し「文章中の根拠や話し合いの内容などをよく聞いて振り返りを書くことで、相手に伝わりやすくなるね」と伝えたりするなど、児童の学習改善に向けて支援した。すると、振り返りを書くときに学級通信を確認しながら文章を書こうとしたり、授業中に友達の発言をメモして、振り返りに生かそうとしたりする姿が見られた。

振り返りの「書き方」「伝え方」だけでなく、それぞれの児童が、どのように受け止めたり感じたりしたか、それを言葉でどう表現するかも大切な部分であるため、今後も引き続き支援が必要だと感じている。

このように、授業マネジメントシートを活用することで、どこで、どのように、どの評価をするのかが明確になり、計画的に評価をすることができた。そして、単元を貫く課題を1枚ポートフォリオで振り返り、心情チャートで登場人物の心の距離を表現する活動は、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る点でもよかったと考える。

イ 既存の授業マネジメントシートの活用・実践

(イ) 4年図画工作「絵の具のぼうけん 楽しさ発見」の実践

令和5年度の4年生は、前年度に作成・実践した授業マネジメントシートを基に、児童の実態や前年度の実践での教師の気付きから、本年度用の授業マネジメントシートに改良して実践した。

この単元では、全員同じ魚の絵のうろこに、三原色で混色した色を使って色付けし、別の画用紙に描いた背景の上に切り抜いた魚を貼って作品を完成させる。学年で話し合い、単元の流れを2点改良して実践することにした

(資料8)。

1点目は、背景の描き方で、前年度、身近なものを使って絵の具遊びをして背景画を作ったが、本年度の児童は絵の具を使うとき、混色と水の量での濃淡のみで表現する子が多いという実態から、「にじみ」「ぼかし」の技法を取り上げ、新しい技法を身に付けることで表現の幅を広げることを目指した。

2点目は、前年度の取組での「切り取った魚を背景に配置する向きや位置にこだわる子がいた」という教師の気付きから、魚の置き方を考える時間を設定し、よりよい作品づくりをする姿を目指した。

【資料8 授業マネジメントシートの改良】

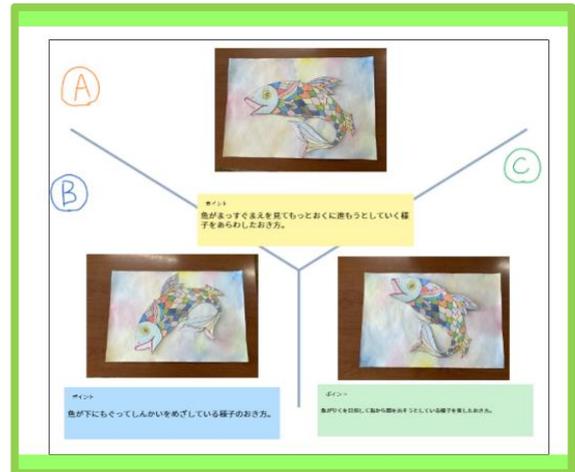
令和4年度(昨年度)		令和5年度(今年度)	
時間	活動(★☆ふりかえり)		
①	1 学習の流れを知る。 2 三原色の混色の練習をする。 ★絵の具を使って何が出来るようになりたいですか？	絵の具遊びで身近な物での	① 学習の流れを知る。 2 色の三原色の原色の練習をする。 ★絵の具を使って何が出来るようになりたいですか？
②	3 三原色で混色を行い、魚のうろこに色を塗る。 ☆絵の具の塗り方で気づいたこと・気を付けることは何がありましたか？		③ 色の三原色で原色を行い、魚のうろこに色を塗る。 ☆絵の具の塗り方で気づいたこと・気を付けることは何がありましたか？
④	4 身近なものを使って絵の具遊びを楽しむ。 ☆身近なものを使うと絵の具でどんな表現ができましたか？	ぼかし・にじみの技法	4 「にじみ」や「ぼかし」の技法について知る。 5 「にじみ」や「ぼかし」の技法を活用しながら、画用紙に絵の具で表現する。(背景の作成) ☆背景はどんなことをイメージして色まぜましたか？
⑤	4 前時の活動を振り返る。 5 前時の活動を生かして魚の背景を身近なものを使って絵の具で表現する。 ☆魚が泳ぐ場所をイメージしてどんな表現ができましたか？		6 7 「(昨年の様子) 作品をよりよくするために、魚の置き方を工夫したい児童が多かった」と考える時間をとる
⑥	6 魚を切り、貼る。 ★魚の学習を振り返る。 ★色づな物を使って表現する活動の中で気づいたこと・これからはしたいことはありますか？		6 魚を切る。 7 前時に作成した「背景」の画用紙の上に魚をいろいろな向きで置き、どのような場面を表現するか考える。 8 自分が決めた構図で魚を貼る。 ☆背景の色と色づな物を考えた魚を置き、どのような場面が表現ができましたか？
⑦			8 自分の作品について振り返る。
⑧			9 友達作品を鑑賞する。 ★絵の具の色々な表現の仕方を実践したことやこれからは挑戦してみたいことはありますか？

この改良に伴い、三つの観点のめあても変更した。2点目の改良点、魚の位置を考える時間では、児童は、学習用タブレットでいろいろな魚の置き方の写真を撮り、思考ツールのYチャートを使って比較した（資料9）。Yチャートを使うことで、自分が表現した構図を比較したり、客観的に捉えたりして、イメージにより近い物を見つめたり、新しい発見をしたりすることができ、表現したいことに合わせて試行錯誤しながら意欲的に活動する姿があった。

教師は、試行錯誤する児童の様子やその作品、振り返りから「主体的に学習に取り組む態度」の見取ることができた。

既存の授業マネジメントシートを見直して実践することは、新たに作成するよりも負担が少なく、気軽に取り組むことができた。また、児童の実態に合わせ、より有効な授業マネジメントシートに改善することができた。改善した授業マネジメントシートのデータは、更に今後活用が期待できるため、蓄積していく価値があると感じた。

【資料9 魚の置き方を考える】



### 3 成果と課題

成果としては、以下の点が明らかになった。

- ・学年共通で授業マネジメントシートを活用することで、学年の教師間での授業に関する話し合いが活発化した。
- ・単元のヤマ場を設定し、更にそこを評価のポイントとして振り返りの場を設けたことで、児童が、これまでの学びをどのように生かし、どのように考えているか、見取りやすくなった。
- ・授業マネジメントシートを活用することで、どこでどのような評価を行うのか、児童にどのように学習改善を促すとよいのかなど、指導と評価を一体的に捉えて授業を行いやすくなった。
- ・授業マネジメントシートを蓄積することで、来年度以降にも授業改善したことを生かすことができ、新たな改善もすることができた。

また、課題としては、以下の点が挙げられた。

- ・ヤマ場での問いと振り返りの内容について、単元全体を見定めて設定することが難しかった。

### 4 おわりに

授業マネジメントシートの活用は、評価の在り方を見つめ直すことで、授業改善・学習改善に役立てることができた。また、研究を通して、授業マネジメントシート作成・活用に当たり、学年で教師同士の会話が増えたり、協力して同じ方向で学習を進めたりしたことで、教師一人一人の力量アップにつながった。

今後も、指導と評価の一体化のための学習評価や単元でのヤマ場の設定、よりよい「ねらいに迫る問い」を意識した単元構想をし、授業づくりをしていきたい。

【知立小学校目標】 進んで勉強する子 思いやりのある子 カいっぱい運動する子

【授業マネジメントシート】 6年 国語 風切るつばさ 9時間完了

時間	活動(★☆☆ふりかえり)	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】	ICT	評価・授業改善等
①	1 本文を読み、学習課題を作る。 <b>★クルルにとってカララはどんな存在なのだろうか。</b> (単元を貫く課題)		・「読むこと」において、登場人物の人物像を具体的に想像している。		振	
2 3 4 ⑤	2 段落ごとのクルルとカララはどのような関係か、心情グラフをもとに考える。 <b>★クルルとカララはどんな関係なのか(場面ごとの変化)</b>	・図示することによって情報を整理することを理解し使っている。	・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 ・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように、事実と感想や考えとを区別して書いている。		振	
⑥ 7	3 段落ごとに読み取ったことをもとに、課題について話し合う。 <b>★クルルにとってカララはどんな存在なのだろうか。</b> (単元を貫く課題) 		・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように、事実と感想や考えとを区別して書いている。	・進んで登場人物の相互関係や心情などを捉えて、考えたことを伝え合おうとしている。	振	
8 9	4 クルルとカララの紹介カードを書こう。		・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように、事実と感想や考えとを区別して書いている。			



単元のヤマ場

★・☆ 振り返りの場面  
(時間の○数字の時間)

単元のヤマ場 = 単元のめあてに迫る場 = 評価ポイント！

★単元の最初と最後  
☆必要な時に振り返りを行う

※振り返りのために、「限定的な問い」をすることで、主体的態度を見える化する  
「～楽しかったです」「～わかりました」という振り返りにさせない！  
※ロイロノートので振り返りを累積する。

指導と評価の一体化！授業改善！

児童生徒が振り返りに書いたことや取組の様子から捉えたことを（事実を照らして）記入する。  
⇒次の授業に生かしていけるものとなるように。自分のメモのような感覚